洗耳坊追善

古歌仮

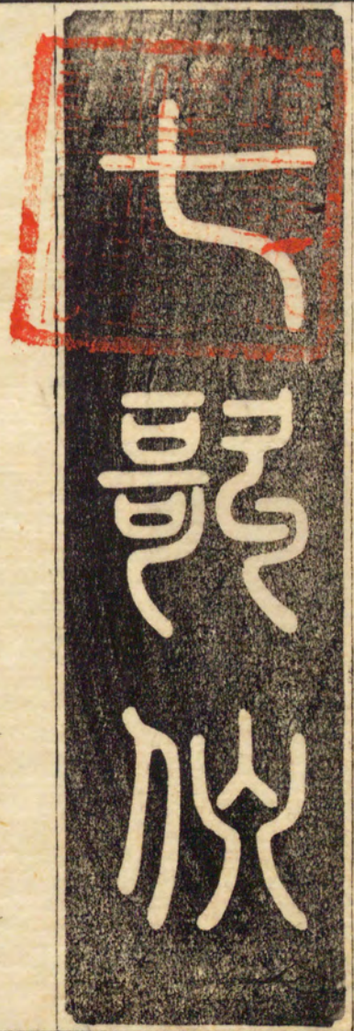
L913
シ

ガラス使用

雨夜軒中雜

秋耳社著述

洗耳坊追善



西武連中選

病中記

[illegible]

世ても慈深く松をうゑ柳をうへて小松の後あまたありけし
行ひ慢しも霊鷲の説法の折一枝を寄せて
あるに婆娑に於る甲比丹あり菓の地
に嘆しからぬ年の後に
其後枝に跳たれは安し年々茂る

甲宮某日

法山の新跡に有り浮代の書
に秋し納金して仏の社中の書奥を深く禁の書といへる
小冊を上本せしる新く讀月き流し読もいつしか傍主の
はしめなる一下日つ中のとれを集め秋新にして出たるきき
たる新主大方此世の名ありしまさに心にとかくふ見より安ず良
世界をいつしめてたまふに行術を一しき思て年ゝ富る
志しきたる石碑は生きおに建て又年保したれに頼り
住しからまつ人有る息き甚うれきるふきも見ありにして
識能しぬまいふ門しきを深く語られ碑面に鏤し本
の思なる先哲の廣学に傳りてこれをまなひに云時中
に念佛誦経息りなく安心定くしておいしりうる某を
立秋になりて二十年の首に

年の坂楽く居て越まちかねし

乙卯暮日

ことし冬のはしめより新を歎くこと何日比

こゝ入りけるか此まゝに急に角病床のこゝあつて已也る

白れ中にも哀れなる趣しくし家の社中にえ里玉机

ケ身魂を祭りて親疎の集りけれは

連のある時はわすれなし送り壺

とありむまた文哉日病中の吟とそ

弱り連なれと吟ふや秋の塊

大也我丞

ねとしけやむかしと作く枯尾花

と吟し去年も清らか師走十四日我草亭去

納会の杖と成られし

花恙り皆あてらか説先られ

と枝折ありしか其花の連衆も亭主の不富と窮ひけれは

この世外の宗匠に招ひ来りて其の待んより酌ハ其の後ら

我もあやなく帰り文之と見るれは我は俳諧も一順して

初めゟ石川追善湯川の冬り朝出ひしを

附添しおのこ駈らさゝ抱して送り来しをしらさより
手足の動揺おとゝめあへし此時ことに蔵肢骨を侵し
疼痛堪りかたく顔色も憔悴し食量も減します
鹿角且の吸も咬てまさに瘥ひの甲斐もなく忙然と
永き日を送りくるきはしれの朱来顔ある古媼なる人
来て行しかたゝゆくはの外におもなき悴章を画きて
其後は挽もよつされは夫の門家に彼の親族をお入殺り
枕に添へ裾とりて伽をせられける時は文雅なる人ゆゑ
惑もおりて帰らさらは待えひしも漸卯月の初めに

帰りて来ぬ身と悟りけれは

おもふ事待日にかはしとおもひしに

こゝろなしのふ下のあふ文字何とやらんなまかりしもなあらぬ
侍ずて玄関より積る病憶りて夜のお枕元あく鶏の声まて
おもひ続き臥ぬ明る日は我も招かれて夜に此師より伝来の
秘事口訣を授ケられ顔容も勝れて又伝ふれ登も
得かゝえて文雅をは味ひ若くして出てに名跡ありしとや
於けりん漢子押なりしや後ろ影を見送りしかと振
返り袖に涙を催させて夜を眠りて卯の花も

ちりくに又月あはれみ待きてはきゝくるゝもいさゝか
情ある作は悉く絶筆をとゞめ石摺板に挟まれ梓に彫之

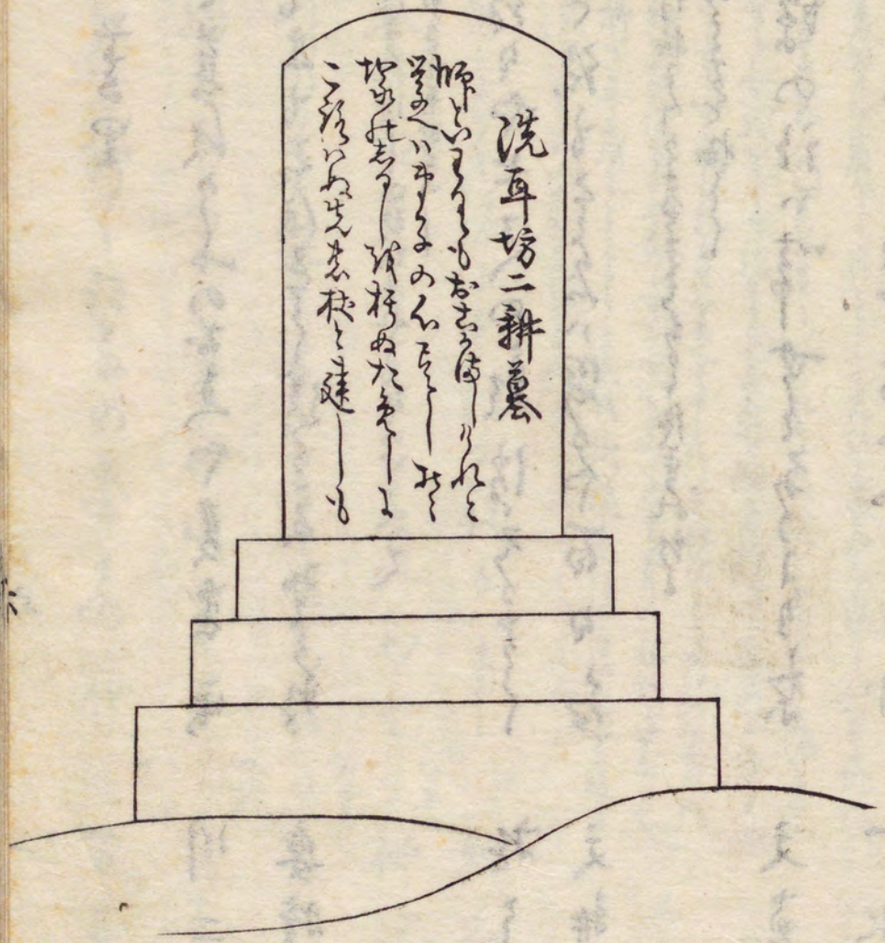
常盤木の落葉するまて世や我なりふ

と詠しは是を攫ける絶筆も後まで忍ひ知りまる
志ろあれは侍に侍る人ともいふくるを痛め身を苦しめ
神仏に延年の祈誓は是さらに良医良薬の千里を遠しと
せすして求めぬ人もなし元禄七年十月十二日の
晴六十七歳は此世の限りとして眠るか如く往生せり素懐を
遂けたまわぬ時は芭蕉翁の落葉の奥くふれくわの庵を

彼らは俳諧の道一筋にして他の技芸を顧す歌僧西行宗祇の
教をまもり天地自然の道理を悟り西武柳子の二世か
株梁と仰がれあまたの門葉弟子化す郡郷に隣り
ことの道は風にいざなはれて功徳や秋舞に没日を同じく連師と
まて数の年しきは実に風雅に値遇の因と縁との不可思議なる
を感に堪へしめ来る者の俳諧あれはこれただ一の絶筆をしめして
自門は更に他流にいたるまで常楼に招くの大席詩歌おしょう
さらん詩の悲しさにはまして歌さへも寄せられし追善集
集冊を催ふまてにそそきてまる山の芳志を忘れむ天皇ときの例

敬ひ西武七ヶ所を経て七日の供養を分仏行をとゝまり進
悼の名称も其後を源へ送称の石碑をゝ尾を張一帰り
徳行の不朽を後世に伝へんと七分仏を標題し終を梓る
ちりハゑん仏ゝ事志ゝり

安政四丁巳年十一月　執中高　川二



言里

[illegible]を[illegible]のおもへや[illegible]雲　川二

[illegible]も[illegible]を[illegible]送る[illegible]　要接

行雲は[illegible]一家ひりれも[illegible]

[illegible]や七夕の新[illegible]　[illegible]

[illegible]も[illegible]百日紅　文耕

行秋[illegible]

空蟬の[illegible]世[illegible]　文恵

[illegible]を[illegible]　一水

[illegible]年[illegible]一日も[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行[illegible]志[illegible]　如石

月入て[illegible]の[illegible]　二男　柳波

[illegible]の[illegible]　三男　[illegible]川

我[illegible]　四男　[illegible]

[illegible]新を作く[illegible]の[illegible]　孫　万寿

初七日

福田連中

[illegible]

うれむくや涙の面よさらす　仲

恩い忘れたりとも　嘆　埠　撫童

照りとる日蔭い重ふ迫寄りく　如石

業園に孫を入きる　慰を　乾川

二種況出会て居れも元トの癖　仲秋

あもめまり秋寒さの　寿山

後の月ろく撫元社　寿　巻り　仙寿

婦と妹の拾枝るかや　惠年

徐ま況元ん不不達たり　牧児

陰ぬりれとも出めり在　万寿

きるくと陽ろと世況を廣け　柳舎

仏に法ろも婦をはつく　東泉

る福者と業と巻枝の衣配り　琴先

池きよらに行燈ゆり込む　文志

右京仙行出席一吟

名詠

常盤なれ蔦まつと蟬の鳴日ぞ　仙吉

小燈へ池きよらにゆり出より　雲

雪山の蔦の葉の出もりぬ　嘉幸

ちらし出しくてや鳴くれ彩　英先

蓮の葉やちらちらと見る葉の玉　牧児

性るの神よりたや神を送り　文志

塚へ蔦く蟬も一日寿鳴ぞ　柳舎

世中へ名を廣まりく殺す蓮を　東泉

星をく信らぬ蔦よ蔦れ　昨秋

二七日　仙吉連中

拾く

波舎人やりの多而よ苦法を

法行出ぬ多ちとを　川二

禅蔦を藤をもおしく法ちく　玄機坊

酒のゑひさめゆく出雲　如泉
堀下ハ市日のかも閑なり　舟也
宿出て松くらき寺の猫がみ　林柁
月ありくまもなく湖水の古侍　素二
泰ありし て孫宣の秋寂　松二
かあ〱と雁わたる塒帰り　言二
俄に彼のうし嵐吹出　素水
岸の芦名苔の底も人出家　山楼
音れ隠る雨ハ風も身に入む　桃葉

右歌仙出席一巡

各詠

照然にもあられぬ里さへの郡　素二
妻有風も今ハ香焚く句なし　ぬ葉
窓仰ぐ水も澄くに雨や蓮の花　言之
日のかくれ残りにふしれし山路かな　山楼
蝉啼や森の分け出精も　林柁
見送れる新たなる涼や哉　素舟
残りけき庵したる涼出し篝　松二

清川を隔て所柴の夏り清水流れ山路やあり七
月歌ありて後ろ見まの国に行路山風吹廿六年
ふるさと山陰をしのぶ廿六年

庭に居て待れよ蓮の香りて　玄機坊

三七日

羽尾
水房連中

文小

こよる親と寝て行くもの寒ふる
ふくもおれも寒の男れ　蓑　小子
月新しきめ又寒蓑ありて　文

よろの中よりそれ敗　文り　小
猫の目寒きもの新しき蓑ふる　文
山新しく絵よりも　吸ふ　小
寒伝門下略
こもぬもそも寒ふや　時のうち　衣　小小

四七日

塩連中

一小

面新い新りく柳　蓑りよりも

あまえもしれぬあさこ哉　文素
月にぞ西瓜の俵作りけり　水
橋かゝる先は村の新田　素
うけあひく庸醫と人のいふとかり　水
浄瑠の語く声はれもり智　素
右歌仙以下略

五七日

葭廣
勝田連中

なきひと此日の念ふや魂祭り　桜嶺
手向の閼伽をそゝく蘭尾草　文耕
桂男もねとりの庭へ許さして　嶺
時代知らぬやうれを皷とんく　耕
鱸釣る三里先からきるなり　嶺
素をおれば霰吹込む　耕
右歌仙以下略

六七日

明戸連中

実のなしはいさぎよき蓮かな　可遊

涼気に躍る月も浮被也　芝原坊

初茸も市へくと羽そえく　圃推

道なれば坂もあるなれ　里风

意地よはき理に朝顔も神諸　志孝

蓮葉の浮逢もよき儀哉　雪醸

六家仙川ヶ略

各詠

散りしきは諸も鬱し蓮青池　圃推

ころ紐の嘆く行衛やけふの子　里风

洗年坊に耕人や西武に柳子門の古老と云ふべき一也
しても好みによりしいてもあれとし、筆をかゆく諸遊ありより
月花の門を撰び風雅風に暮して世の中ふりしれ年は凡り
是千月の間を結び一日に秋の夢より七十年にまとろくし
されやまま世のみことに病床に倒れ一夜と捨し閑情あと
日に経しい人にと寧し[illegible]いまは身を再会をお人も
別れを告て膓あるしとまま活なく[illegible]書は夢れの
便りありれは君が病床の有様と思し[illegible]
ある[illegible]月のえし[illegible]にして[illegible]とりか一句の
祥せとおし伏せ身に情はて逝しましたる孝子　如
柳のこころの汁まま[illegible]双紙と[illegible]し[illegible]を
枝に付りし

身にしみる便りきくりや秋涛　芝原坊

七ゝ日

瀬山連中

洗耳庵に新亡人七ゝ日の法筵を修し寄草むすびつゝ一巻の香席をもうけらるゝ

七草の花餞捧へしてや雨の江　金岳

露暴ル涙ま添ふ露時雨　喜之

山の端を投るゝ月も朗らかに　委精

見よりもをやくなる川衣　乞好

言葉まく人をも吟る髭男　碎月

坡きりのふり朝也あるなり　毛音

代のけハこれも法のわくむりまふ山　南川

あまを占んでも朝まれの音　箏池

太り肉中きさらぬけても貴ハれもう　竹濱

如露の乱しきに法も退　而呂

ちらくと旭ま光る走れ顔　元之

同しよふくもぬらん離い　素風

若菜を採娘有て気母の膝　井狸

花の菊にも衛く咲ぬ法　感之

鶏ハいきもろしつもて噂も残り　挂山

波よする磯表砂京　逸想

神風の伊勢路はるも此浜　鶯南

咲ならふ上の嶺躑躅哉　由此

永以日といふものに八ッ下り　某氏

花開広く同え来かし　之業

米小袖赤みあひる花おして　ぬ梅

酒成夜とく庫て飯てえ　之岳

蚊開く津世をわれし下屋敷　ち濱

雪をれ手に濡り積るあわ雪　素風

ちりをしく蝶の来例は延いまれぬ　岳

明ぬ川うし同いるく居る　之

熊野路は叩きに坊るはま山　精

除福か祠今も秋寂　好

月高くあまくもかしゆ墨むし　飲山

婦の妹を柿に宿かり　絲路

大入をあくは年路く藁居好き　月

霞科る玉子の恵比寿　寿

角屋愛あれとあれのの九太之七　川

ガラス使用

世の中よりはれ風うそよ〳〵　証

ちり〳〵むくつゝ紫しとゝ見つれば　有年中

墨口同者ゝ百ゝ時景　松声

衣字仏刊一生

吾詠

言の葉も今い記されあら南　俊山

ちり〳〵世れ時ゝ更景者ゝ　松声

蟬も鳴くゝ向ふ塚の雪　也好

清〳〵ゝ紙詩の屋の故者ゝ　線路

ゝゝ作やゝ向の蘭仏ゝ一ト事　南川

い川の月形い清〳〵ゝ雪れ景　醉月

世ゝ者ゝ風も〻ゝ者ゝ紫ゝ　入子

此ゝ紙ゝ〳〵ゝへや者の月　真声

雪景ゝ末の紫ゝ雪れ岩ゝ　書風

ゝ向ゝ百味の数ゝ風景ゝ　如柳

ゝ者ゝ風い清者ゝ百日紅　等証

行者ゝ〳〵撫むゝゝや〳〵ゝ作　玄時

面〳〵新の名砂や者ゝ月　松山

うれしさや扇に残る筆の跡　三楽

よ所に見も恵みしやうきはもと　應之

塚に花の俤残るよみかへる　竹渓

時鳥西へ飛ふかれ一つ声　如是

こゝろ魂の西へ入りてや飛ぶ蕉　逸蕉

涼しさも風の声まりて　花氏

懐こりやうつし送る筆書の旅　長濱

一ト声も空うつろなる聲なし　時雨　三思

ちりしずや孫と抱く長の月　蕉南

送年坊く耕花先生の旅立まれたる年の
おしくなよく

耳に残るもあれりしき清水かな　有隣

去し此中秋月十日の空の都に物けりしかは送年坊之耕
花人あまりの世に知られたる門下なる人々あまた集まりて其名の徳ありしハ
更にも此晨月夕師の家に遊ひて風流を好み給ふ事外にたとふへき
して手を取り給ひ我を郷に門に世におもむく道を仰かれまうり
されは花師先生の清きを今に門下の人々と集め文を記し跡を作りぬ
まとまれはかりしつかに月もしらぬこゝろ旅に書きて我か
ちかき近隣なしたる人送年し今更に前をやうきされ
此之跡と人々もよふ狂坊よ獅子門の永く集へる様なりけれ
空よ師恩のまゝにとられて是を遺ひぬるしいかなしく　　なりま
三十四年の紙籤も今はまた芳縁されあり信れる世紀の流
よそりて掃ひもちらし年月て只塚の下に往来あり

月花のこゝろ関し晴れ小路　松下庵　青之

百ヶ日

新世さうも梅檀のけむりに送れぬ月日の経ぬるや
こゝろ[illegible]我師匠のいめりの中の[illegible]月中の[illegible]
[illegible]親族に[illegible]
灯火の消くれたる[illegible]
いにしへ[illegible]
四季[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
神祭と重あるなり

文雅亭
要猿

報ずやまさを祭の七代忌
もゝ歌ぶ作ゝ月 新川二

柳波
山の猿ぬれ[illegible]
[illegible]
池氣の[illegible]
猿の[illegible]
猿に生[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一小
徐路
文小
文耕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

武浦和連中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一旭

和詩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一思
九拍
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　摂津
佐保姫の[illegible]八[illegible]　　荒川
[illegible]　　慈恵
[illegible]　　嘉平
[illegible]　　文志
九十九[illegible]　　摂合
[illegible]十[illegible]の[illegible]　　東泉
[illegible]　　牧男
[illegible]　　作七

[illegible]の[illegible]　　春風
[illegible]　　吉静
[illegible]　　慶和
[illegible]　　素山
[illegible]　　仙素
[illegible]　　作我
[illegible]　　文恵
人[illegible]　　一水
[illegible]　　勝田　文雄

梅顔　羽尾　文水
小房　小弓
侍る　桜之
風や　雪と　桜小　永二
菊代や　柳の　蔭り　鶴ら　ゆ雪
きり　と　雪と　雪　雪
と　桜の　雪　月　おろ　雪
雪　柳や　遅　たち　雪の　雪　雪桜

鶴　雪
雪の　宿　張り　雪　雪　雪
雪　菊や　夕　雪　雪　山　雪
月　雪　雪　雪　雪　青二
雪　桜　雪　雪　川二

畠山　雪
雪の　田　柳や　川　雪　雪
三ヶ尾　彼山
雪　雪　雪　雪　雪　雪
雪　雪　雪　雪　雪　雪
雪　雪　雪　雪　雪　

水鳥よ[illegible]の角　線路
河骨や[illegible]　杜声
青柳や[illegible]枝の撓む時　下京　酔月
[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　又雪
秋[illegible]　[illegible]細[illegible]　[illegible]
[illegible]の声と[illegible]　等誕
秋の日[illegible]　[illegible]　[illegible]
秋風や[illegible]女人　[illegible]
[illegible]の風[illegible]柳の[illegible]　[illegible]風

[illegible]の月風[illegible]時　[illegible]　三楽
[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]声
[illegible]や[illegible]　[illegible]影[illegible]　[illegible]吟
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　上世　逸[illegible]
[illegible]い[illegible]　黄泉　[illegible]渓
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　川東明戸　可逸
[illegible]の[illegible]　[illegible]　里風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]女子の連や[illegible]れる物　英文
山里の[illegible]や[illegible]　素後
鶯[illegible]れ[illegible]の[illegible]　一[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible] 月 [illegible] 二

[illegible] 里い 稔て [illegible] 秀房

月 [illegible] 如 [illegible]

[illegible] 牛

[illegible] 月 [illegible]

[illegible] 古 [illegible]

[illegible] 里 [illegible]

[illegible] 秋 [illegible]

[illegible] 八 [illegible]

[illegible] 八 [illegible]

[illegible] 仏 [illegible]

[illegible] 秋 [illegible]

[illegible] 和 [illegible]

[illegible] 自 [illegible]

[illegible] 二 [illegible]

[illegible] 里 [illegible]

[illegible] 一 [illegible]

[illegible] 文 [illegible]

[illegible] 佛 [illegible]

[illegible] 人 [illegible]

夕暮い寄れば秋の淋　宗二坊

その竹を枝ふる柿ゆ郭　伊藤行年　茶湯

明るを知る月吹寒く秋深し　雖笑村会　孤峯

川の月あるもうるおあるり　里濃

暮れ暮れ月の海も暮の姿ゆ　出羽　忘雪伍

月新し秋深しを暮は立　宵の雲人

南へ川を暮れ暮れ　秋　雙岩庵

余興

三ッ物

三新の捨しゆるむ春の　川二

俳月れ新稽る恵　如石

法に秋深れ山の待ち　春雄

跋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬい宮ゝよこ辨の石も侍るゝ一奏聖のまゝよりあり一トたひ
聴まおうされ機と傾ゆゝ一より終雪れ彩よ多ゝと他潜の
二宮紙ゝれきるゝ式ゝ石ゝ鉄肝の宮ゝ面ゝ之りれさ逸い是
年れ川状を聴まあゝゝ一生庵ゝ遺孫と所孫せゝと古光の流
紙いまゝうゝ長ゝ拙ゝ家と陳ゝ文雅ゝ妻接接ゝ白ス

成簡堂
寅猷

洗年庵遺詠

年歳や京とゝ淺ゝゝゝおゝけゝ
ゝ所の住ゝ生ゝれゝ名 素 猫
ゝ士も頃の口切ゝ月ゝ
ゝ解 ゝ雪ゝ東野の宗ゝ 亜
ゝゝ庵ゝい殘ゝ柿 ゝ東の貴ゝ
ゝ庵ゝ入ゝゝゝん庵紙新ゝゝセ
ゝ猫ゝ水ゝ洗ゝ春ゝ 岩
酌ゝ春ゝゝゝゝゝゝ二十大柘

畑ぬ　やまと　四月の　おもし　雨
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
人　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

清佛や法と寂しき門徒寺
春さくや石みちみちあるも交るも
けさけさけさけさ法の格あるま杜若
この名名名名一ト声やけさけさ法
世のるや春いるる名いまけさる
取まり大も自ら仏刹む軒
きけさけさやあるけさ風の格りけ
葉のも流れさや井来流れ多
るれ向いあまさくも石合のも

梅先紅見れ死ぬや又月面
来梅むや足も寒りいも七七
白面やるれるけるあるよりり
梅りり北修遊い格りり田多り
雲千や経の多るる蘭去る
夕立や面けさけよめれる又
若世やるる鶯くるも秋る連
及り格る月も立るや蓮の去
立寒も知るめ味あり若清れ

[illegible]

[illegible]

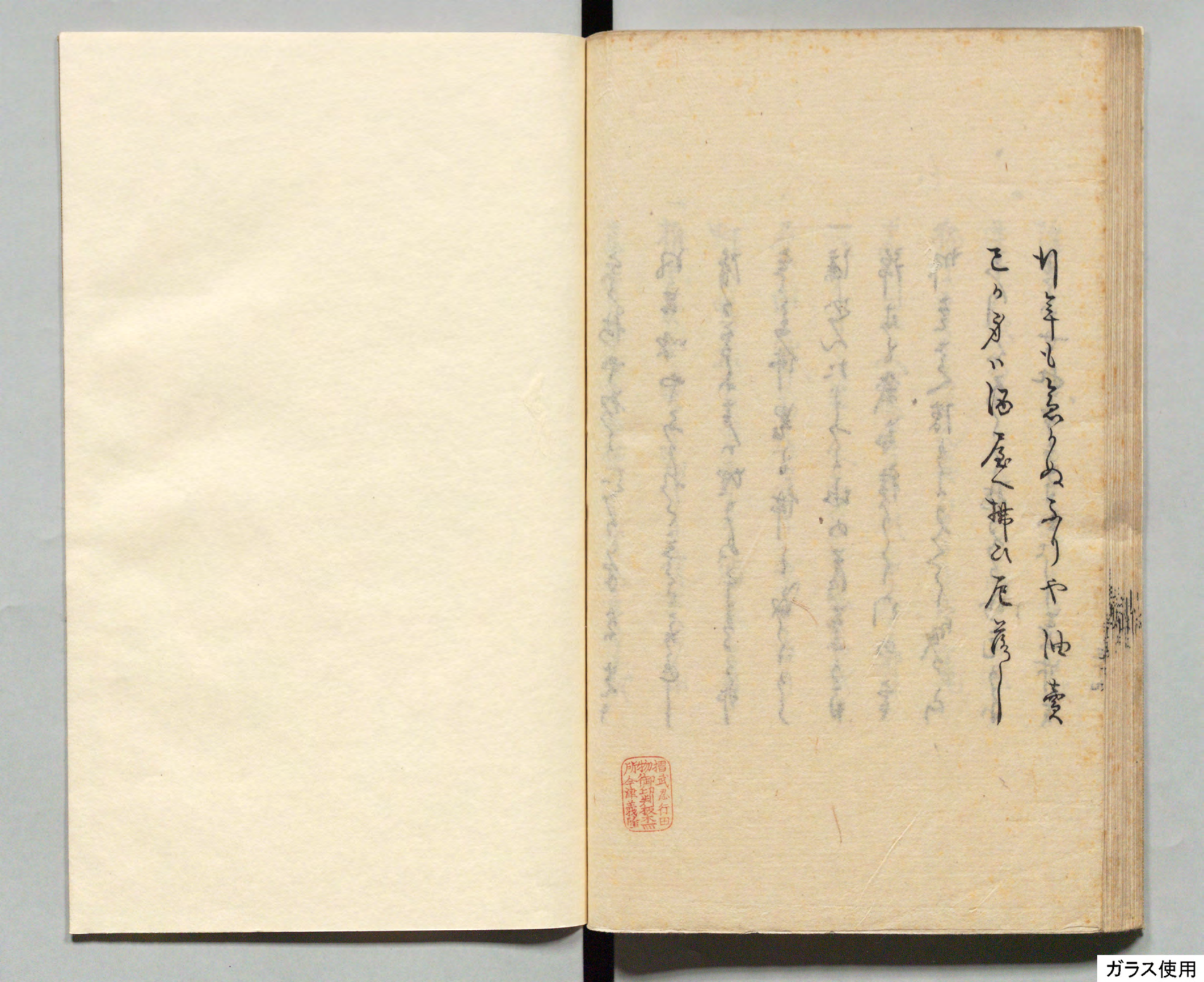
[illegible]

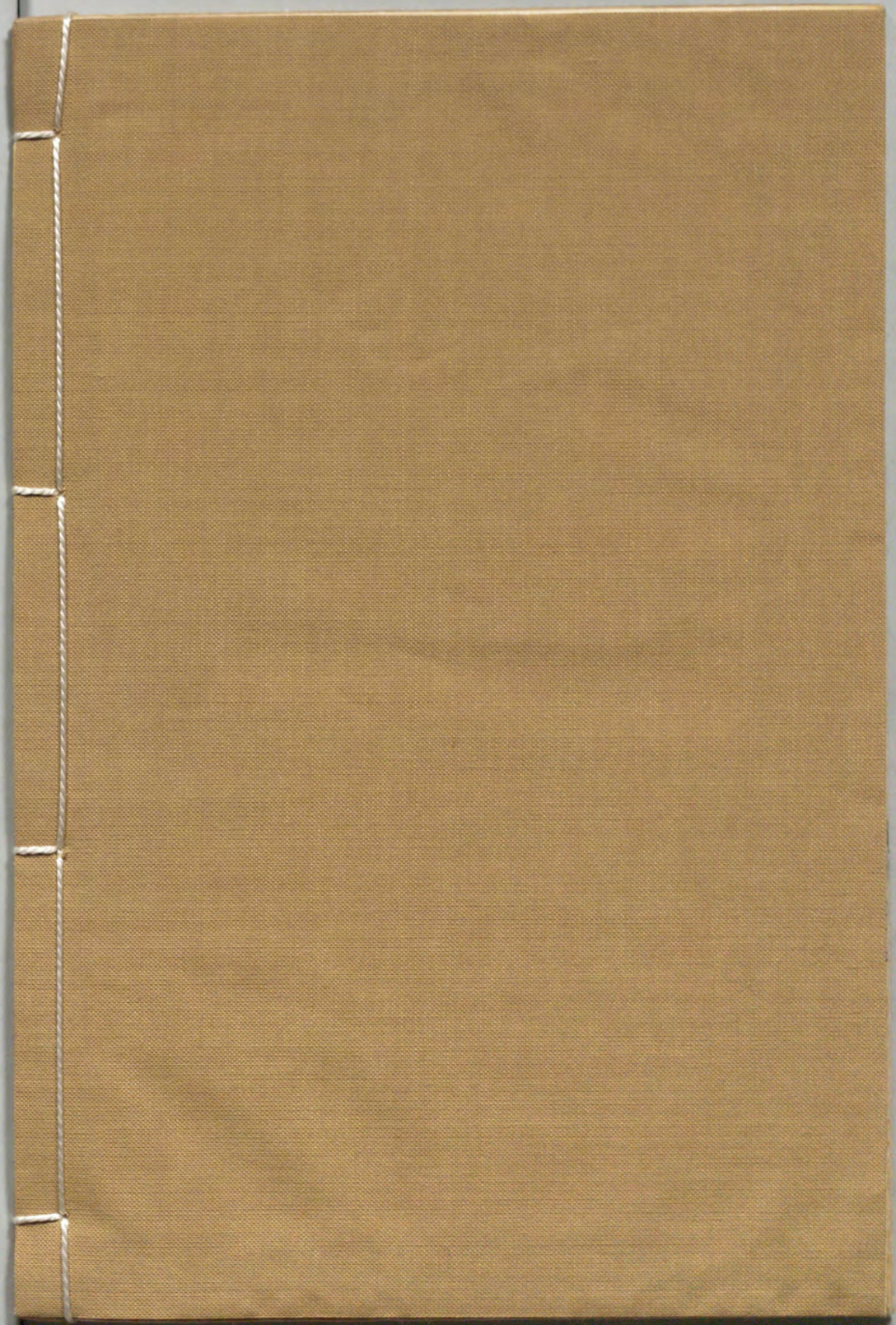
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
牛よ[illegible]あて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]川の人[illegible]
[illegible]
[illegible]


摺武忍行田
物御朝枝藩
所会津義隆



ガラス使用